

# 弘大 地域中核研究大に

## 文科省採択、5年最大55億円支援 「健康と幸福」世界拠点へ

### 地元へ波及効果も期待



世界トップレベルの研究拠点を目指す25校を選ぶ「J-PEAKS」に採択された弘前大学

弘前大学(福田眞作学長)は24日、日本の研究力の底上げを図る文科省の2024年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(通称J-PEAKS)」に採択されたことを発表した。5年間で最大55億円(心身の健康と幸福)の研究で世界トップレベルの研究拠点を目指す。採択により、世界の研究者ら多くの人材の集結と、地域への波及効果が期待される。(稲葉智絵)

J-PEAKSは、国の研究力向上を目指し、地域課題の研究に先進的に取り組む中核大学や、特定分野の研究に強みを持ち社会実装の拠点などを有する大学を支援するもの。革新的で卓越した研究大学群をけん引する大学を採択しており、研究活動の国際展開や社会実装の加速、レベルアップに必要な環境構築を狙いとしている。全国に800校近い大学がある中、2年間(23、24年度)で25の大学を採択。1件当たり5年間で最大55億円、最長10年をめぐり支援する。

昨年度は69校の応募から北海道大や千葉大、慶応大など12校が選ばれ、弘前大は惜しくも採択を逃した。最終年度となった今年度は65校が応募。弘前大のほか、山形大、横浜市立大、立命館大など13校が選ばれ、全25校が決まった。

弘前大は、大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」のビッグデータを核とした研究を進める「弘大CO-INNEXT」を拠点に、横断的かつ縦断的研究で多角的な健康寿命延伸、地域活性化に取り組んできた。J-PEAKSでは米ハーバード大や米ジョンズ・ホプキンス大、京都大、東京大、筑波大など国内外のトップ大学などが参画して研究を進める「グローバルWellbeing」を弘前大が提案。今年3月に本町キャンパス内に竣工する拠点施設に「グローバルWellbeing総合研究所」と「Wellbeing」を併設する。

福田学長は「ウェルビーイング研究の世界的な拠点になることで、研究者をはじめとする多くの人材が弘前に集結する。研究大学群の一翼を担うことに責任を持ち、本学の研究力強化のみならず、地域への波及効果も生み出していく」とコメントを寄せた。

学長特別補佐・健康未来イノベーション研究機構長の村下公一教授は本紙取材に「国内を代表する世界レベルの中核研究大学として認められたことは、将来に大きな希望を与える」と喜び、「岩木健診をベースとするビッグデータを世界のビッグデータにしていくとともに、地域経済の活性化にも貢献していきたい」と力を込めた。